

	主な意見
①町田市中心市街地活性化協議会の意見について	<p><b>●町田市中心市街地活性化協議会の意見について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見書の内容は素晴らしい。あとは誰がどうやって計画を進めるかが大事である。インバウンドの一例として、商店街の中に日本人の学生が経営を行うお店を出し、そこで外国人留学生がアルバイトをし、英語や中国語で接客を行っている事例があり、地元の商店主が外国人に対する接客方法を学ぶ場にもなっている。町田でもそういったWin-Winの関係を構築し、地元や観光客でにぎわうようになるとよい。</li> <li>・中活協でまとめられた意見書は、色んな意見がたくさん載っており、非常にいいものである。議論されている方々は、「町田らしさ」を強く求めていることがよく伝わってくる意見書である。</li> <li>・「夢見るまちだ」は色んな人が色んなことをイメージできそうで、末広がり面白く、発信力があると感じる。</li> </ul>
②整備計画全体	<p><b>●整備計画のタイトルや位置づけについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画というものは時代の要請で内容が変わっていくぐらいに柔軟に考えてよいのではないか。「計画」という名前については、維持した方が役所の責任感があってよい。</li> <li>・この計画は登山で言う“道しるべ”と考えている。</li> <li>・手に取って見てみようかなと思われるような、取っ付き易く柔らかいタイトルにした方がよい。</li> <li>・地元で地区協議会を立ち上げることとなったが、この計画があることで、地元も動きやすいのではないかと思う。</li> <li>・この整備計画を見た人が、どのように自分の物として捉えるのかということを考えたときに、自分が主体になって夢を見れるという感じは大事である。</li> </ul> <p><b>●計画や取組みのスケジュールについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「2030年に向かって、こういうまちづくりをしていきましょう。」ということ強く訴える意味でも、2030年に向けてやっていくことをロードマップでわかるようにした方がよいのではないか。具体的にスケジュール感を表現した方がよい。</li> <li>・スケジュールがほとんど、「長期で具体化」という書き方になっているが、パイロットプロジェクトのようなものを今の段階で設定するのは難しいのであれば、できるものは先に動かしていくという内容を、スケジュールの表現に入れてみたらどうか。</li> <li>・10個のプロジェクトの何から手を付けるのかについては、何かしら旗揚げをした方がよい。</li> </ul>

	主な意見
<p>③整備計画策定後の推進体制について</p>	<p><b>●新たな担い手を受け止める体制について（プロジェクト10の情報発信プロジェクトに関連）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな担い手が入り込める仕組みづくりとして、情報を行政からもらい、推進を中活協が担うというのがあってもよいと考えている。新たな担い手が具体的に自分のまちとして参加できる仕組みづくりをつくる視点がどこかに表現されているとよい。</li> <li>・プロジェクト10の情報発信プロジェクトでは、情報を発信するだけではダメであり、発信した結果、その取組みに興味を持った人を引っ張り込む受け皿になるということが書かれているとよい。アウトプットの内容が比較的多く書かれているが、同じように、巻き込む入口を設けることが書かれるとよい。インフォメーションセンターというか、この場所に行く窓口の担当者に会えるような拠点ができると良いのでは。</li> </ul> <p><b>●担い手・関係者について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料3のP.79に期待する担い手として「公共空間活用マネジメント組織」や「商店街全体をプロデュースできる人」などが書いてあるが、これらが誰であるのかが重要であり、プロジェクトを引っ張っていける、適した人を見つけられるかどうかというのが勝負である。</li> <li>・まだ先の話ではあるが、交通管理者がまだ参加していないということが、これからの課題になるのではないか。ただ許可をもらいに行くのではなく、一緒に話し合いをしながら、協調してやっていくのが望ましいのではないか。</li> </ul> <p><b>●キックオフイベント、インフォメーション、プロモーションについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この整備計画は道しるべであり、ホップ・ステップ・ジャンプのホップまで行っていない段階と捉え、キックオフイベントのようなものを作り、その中で具体的なスケジュールを含め町田市が考えていることを伝えられるといいのではないか。案の検討は十分であるので、キックオフイベントに向けてスタートしていくのがよいのではないか。</li> <li>・来年6月の策定後、間が空かないうちにイベントを行ったり、市民に伝えながら、巻き込んでいく第一歩を必ずやった方がよい。来年度イベントを行うには、予算化など、今年から根回しや色々な検討が必要。</li> <li>・例えば、アナウンサーのようにしゃべりがしっかりしており、タウンマネージャーのようにまちの活性化について理解をしていて、協議会にも出席し、参画団体とのつながりもあり、若い担い手が話しやすい、「まちだ大使」のような人がいてもよいのではないか。</li> </ul> <p><b>●取組みの評価について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料3の「3・2 取組みの評価」の居住人口が増になるという部分は、人口の総数が上がることが評価されるというより、人口構成の議論をした方がよいのではないか。</li> </ul> <p><b>●プロジェクト推進委員会について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料3のP.78の「プロジェクト推進委員会」は、推進母体になることと、アセスメントの二つの役割を持っている書き方であるが、推進とアセスメントは別々の主体がやるものだと考えた方がよいのではないか。</li> </ul>